

# 図書館 だより

22

甲子園大学図書館

2017年3月24日発行

## 豊かさと読書

学長 川合眞一郎

国の豊かさはGNP（国民総生産）やGDP（国内総生産）を指標として議論されることが多い。我が国はつい最近まで米国に次いで世界第2位であったが、数年前に中国に追い抜かれ、現在第3位である。しかし、GDPは本当に豊かさを表わしているのだろうか。1968年にロバート・ケネディ（ケネディ大統領の弟）は大統領候補指名のためのキャンペーンの中で「アメリカは世界一のGNPを誇っている。でも、そのGNPの中には、環境汚染や、環境破壊に関わる一切が含まれている。戦争で使われるナパーム弾も、核弾頭、警察の装甲車もライフルもナイフも含まれる。GNPに含まれないものは子どもたちの健康、教育の質の高さ、遊びの楽しさ、詩の美しさ、市民の知恵や勇気、誠実さや慈悲深さなど、要するに国の富を測るはずのGNPからは私たちの生きがいのすべてがすっぽり抜け落ちている」と語った。実に的を得た言葉である。

我が国でも90年代あたりから、「豊かさとは何か」を問いかける書物が急増している。人間が物質的な豊かさや便利さを追い求めるあまり、生産至上主義のマイナス面を見落としたか、あるいは無視したがために、自然破壊や環境破壊が急激に進行したことは今や常識となりつつある。年収が上昇するにつれ、幸福感も上昇するが、あるレベルを超えると幸福感は減少し始めることも指摘されている。近年はGDPをこえるもの“Beyond GDP”が注目されている。GDPに代わってGPI（Genuine Progress Indicator 真の進歩指標：家事、育児などの家庭内サービス、ボランティア活動などはプラスに加算され、環境破壊、交通事故、犯罪被害などはマイナス評価される）によって表わされる経済的な繁栄（幸福）は1978年以降、実質的には減少しており、我々は進歩していない、あるいは豊かになったとは言えないといわれる。

私事で恐縮であるが、戦後の数年間（1949～1955年）の話を取り上げてみたい。1946年（昭和21年）北京から引き揚げて、母の実家の島根県の山奥で小学校の3年までを過ごした。農業と林業が中心の村で、村の人たちの娯楽といえば、秋のお祭りと小学校や中学校の学芸会、また、秋の運動会などであり、いずれも村を上げての行事であった。学芸会では公民館にごさを敷き、村の人たちは酒を飲みながら小、中学生の劇を見るのである。交通機関として木炭で走るバスがあったが、後尾からもうもうと黒い煙を吐き、馬力が弱いので、登り坂では始終エンストを起こしていた。村の子供たちはグローブやバットなどの遊び道具をもっているものはほとんどいない。6年生の児童がグローブがほしくてたまらず、親にねだったところ、「田んぼを1反（約1,000㎡）耕したら買ってやる」といわれ、鰯1丁で何日もかかり、手をまめだらけにしてグローブを手にしたという話は今もよく覚えている。物質的には恵まれていなくても周りの皆が貧しいので悲惨な感じは全く抱かず、自然に溶け込んだ日々の生活は楽しいものであった。

村に本屋さん一つあったが、本を買って読むような余裕はどの家庭にもあまりなかったように思うが、活字には飢えていたのかもしれない。というのは学期初めに担任の先生が教科書を小脇に抱えて教室に入ってこられると、我々生徒一同は歓声を上げたものである。先生に配ってもらった教科書、とくに国語の教科書に書かれている内容は新鮮で興味深かった。

父の仕事の関係で、小学校3年の夏に大阪に転校してまず驚いたのは物質的な豊かさである。小学校の図書室に面白い本が書棚にぎっしりと並べられていた。

1950～1956年の間に出版された講談社の「世界名作全集」のことを書かすにはおれない。6年間で180冊が刊行され、平均すると1か月に2～3冊が出版された。「ああ無情（レミゼラブル）」、「宝島」、「岩窟王（モンテクリスト伯）」と続くのである。この全集はすべて原作をダイジェストしたものであるが、原作の持ち味が十分に生かされており、後年、岩波文庫やいくつかの出版社の文学全集で全訳本を読んだとき、世界名作全集での感動とあまり差はなかった。この全集の新着本が図書室に届き、貸し出し用の手続きが終わるのを確かめるために、図書室を足繁く訪ねたものである。同級生の中には本好きの仲間が多く、まさに奪い合うようにして読み、感想を話し合うだけでなく、ストーリーの中の登場人物の真似をして遊んだ。三銃士のダルタニアン、アトス、ポルトス、アラミスなどがそれである。

昭和20年代（1950年前後）は食糧難で、モノ不足の時代といわれるが、私の場合、楽しい本をたくさん読めたことは幸せであったとつくづく思う。半世紀以上経った今も本好きは変わらず、外出の際、何らかの読み物をカバンに入れないと不安になるくらいである。新幹線で東京出張をするときなどは最高の読書タイムである。

この小文は「豊かさと読書」と題したが、面白い本や、考えさせられる本をゆっくり読むことができるのは至福のときであり、このような環境こそ豊かさの大切な一面ではないかと思う。おわりに、世界名作全集の中で私が気に入って何度も読み返した本の10冊を以下に記した。

岩窟王、三銃士、十五少年漂流記、ロビン・フッドの冒険、二都物語、覆面の騎士、アーサー王物語、紅はこべ、大尉の娘、ゼンダ城のとりこ

☆☆

## 私の推薦書と図書館

図書館長 窪田隆裕

医学、栄養学の教科書や論文を読む毎日を過ごしてちょうど半世紀になります。大学へ入学してから2年間は、明治から昭和にかけての日本の代表的な小説と西洋文学の代表作を読みあさりましたが、今となってはほとんど憶えていません。西洋文学ではドストエフスキーの『罪と罰』、ジェーン・オースチンの『高慢と偏見』（この本は英文原著も読みました）、マリア・レマルクの『愛する時と死するとき』しか印象に残っていません。日本文学の有名な本は、家に揃えてありましたので、太い本を夏休み中（2ヶ月ほどありました）読んでいたことを憶えています。しかし、今となっては本の題名ぐらいで、内容は何も憶えていません。夏目漱石の『ぼっちゃん』や『我が輩は猫である』の小説が、ジェーン・オースチンの『高慢と偏見』から生まれたことを知ってから、日本文学は西洋文学の模倣でしかないのか、ということに失望した覚えがあります。『高慢と偏見』は読みやすく、小説の面白さを知るための入門編としては最高の傑作の1つであると思います。

その後は、もっぱら医学の専門書を読むことで精一杯の毎日でした。また、大学卒業後は、実験して論文（英文・和文とも）を書くのにあくせくし、自分の人生を顧みることなく猛進していた日を過ごしていたと思います。40代で大病をして休養を余儀なくされ、50代で人生の余裕ができた頃に一冊の本に出会いました。『出家とその弟子』（倉田百三）です。この本は当時のノーベル賞受賞者であるフランスのロマン・ロランが激賞した作品です。ロマン・ロランは倉田と100通以上のやり取りをして、フランス語に訳したと本の末尾に解説してありました。大正、昭和にかけて外国人に認められた日本の代表的な作家の1人であると思います。

60代になって、友人から宮城谷昌光の本を紹介され、彼の本のほとんどを読みました。全ての本が読みやすく、どの本を読んでも新鮮な感じを受けたのです。それは『他者が他者であること』を読んで解りました。彼の小説は、主語・述語がはっきりしており、文章が科学論文に似ていました。何故なら、彼は小説を書く上で方法論を重要視し、自分の調べた科学的根拠をもとに歴史小説を書いているからです。彼は中国語の原文で資料を読むため、おそらく西洋の英語、フランス語、ドイツ語の感覚で文章を書いてしまうのではないかと思います。何故、日本文学の本が読みにくく印象に残らないのか、逆に人文系を好む人が理系の

論文が苦手なのかが解ると思います。理系と文系で人は区別しますが、私は文字や文章は同じだと思っています。その表現の仕方、その人の人生の背景から脳の中にイメージされる映像によって、捉え方が随分と異なるものだと思います。文章から映像をイメージさせるものが小説や俳句（散文）であり、イメージされた映像や科学的発見を如何に表現するかが科学論文や医学書であると思います。小説家はよく名文とって表彰しますが、それは自分たちの描くイメージの範疇にあるかないかではないでしょうか？ 科学の世界にも名文はあり、素晴らしい表現で書かれた論文も数多く存在します。したがって、全年代にわたって理解しやすい文章が名文なのではないでしょうか？ 文学を極めた人たちは「文章では真実を表せない」とか、「表すと真実が遠ざかる」と言う人もいます。確かに、手紙では自分の感情が伝わらない、メールでは自分の考えが伝わらず、誤解を生じることがしばしばあります。しかし、科学的論文では如何に真実を伝えるかにその価値を見出します。このような文学と科学の間で生じる文章の矛盾を自分で考えて、1つの解決に導いてくれる本が『他者が他者であること』のように思います。学生諸君のみならず、先生がたも、一度読んでみて下さい。

図書館には、学問の全分野にわたる本が置いてあります。どの本にもその人の人生観があり、価値があると思います。私の恩師の言葉ですが「全ての本には必ず1ヶ所は自分の役に立つことが書いてあるので、それを読み手が探し出す努力をなささい」ということを教えてもらいました。今もその教えは守って本を読んでいます。読んだ本に感動するとき、一瞬でも人は最高の喜びを感じるものです。それも多くのことを経験し、頭の中に色々なイメージが出来るようになると、一層その感動は強くなって行きます。大学の4年間は体を動かして体力をつけると同時に、沢山の本を読み「教養」を身につけて下さい。そのために、図書館は大学に存在しているのです。小説は買って読む方がよいのかもしれませんが、学術的な論文や雑誌は図書館に数多く保管してありますので図書館を利用して読んで下さい。甲子園大学では情報化が進み、論文や雑誌が大学ホームページの情報検索を利用することで、学内のパソコンで読めるようになりました。

是非、図書館を利用しながら有意義な大学生活を送られますようお願いしております。

☆☆

## 読書のすすめ

栄養学部 高橋和広

今、この文を読んでいるそこのあなた！こんな所にまで目を通すなんて“今どきの若者”とは思えない感心な御仁です。勿論、特にやることもなく偶然目に入っただけだといって、すぐに読むのをやめてしまう方もいることでしょう。それでも、こんな面白いことなど書いていようはずもない所にまで、きちんと目が届くあなたは、やはり感心な学生です。私はあなたに在学中せめて一度くらいは図書館で本を借りて読んでみることをお勧めします。ご承知のように、今の（今も？）学生は本当に本を読みません。それはもう堂に入っているといえますか、見事といっているほどです。かくいう私も、何の因果か「先生」などと言われる立場にはありますが、悲しい哉、これも所詮は世を忍ぶ仮の一姿にすぎないと、白状しない訳には参りません。幼少の穢より運綿と続く不学が祟り、もはや泰西先哲の書を繙くことすら絶えて久しくなっております。念には念を、誤解なきようもう少し恥を上塗りしておくと、私は飽食の時代に生を享け、学生の時分はスポーツに浮き身を養い、もとい心血を注いできた身ゆえ、「終戦後は教科書を満足に手に入れることができず云々」、「学生の頃は図書館に籠り本を貪るように読んでいた云々」式の——我々が“碩学”達より繰り返して聞かされてきた——高尚な経験などろくすっぽ積んでこなかったが為に「やむごとなき学生」になりそこねた玉です。そんな“今どきの中年”から頼んだ覚えもないのに、益体もなく更には中身も薄っぺらな説教を聞かされる義理などあなたの側にもないでしょう。寧ろ、商売柄、必要最小限度の本は否が応でも読まざるを得ない私のような手合いとはそもそもの前提を異にするとはいえ、よくぞそれほどまで本を読まずにいられるものだと学生を褒めてあげたいくらいです。

しかし、何故本が読まれないのでしょうか。それはおそらく、本など読んだところで大して役に立たないからでしょう。では、何故役に立たないのでしょうか。説明の仕方は色々でありましょうが、**蠶窮**を振るって申し上げますと、それは私たちの社会では、本など読まなくとも読んでいふりくらいはしておけば——かつて“思想と実践”を会話の端々に散りばめることが、あるときは異性の気を惹き、またあるときは関係を断つための悪しき切り札たり得た時代があったやに聞きますが——実際のところさほど困ることもなかったからではないでしょうか。しかしそうはいうものの、読書をして全くもって無益な**精進**と**見倣**してしまうのも、それはそれで**聊か性急**に過ぎるように思います。何の**脈絡**も無くて真に恐縮ではございますが、以下の文は、ノーベル物理学賞の授賞式を控えた、ある研究者によるものです。宜しければ「読んで」みてください。

「この一時期を通して、僕は心理的にたいそう悩まされた。僕のおやじは制服を扱う商売をやっていたから、僕はおかげで制服を着ている人間と着ていない人間との違いを、いやというほど知らされているのだ。つまり中身は皆同じだということだ。……スウェーデンにはきびしい礼法があって、王から賞を受け取ったあと、王にお尻を向けるのは失礼にあたるから、そのまま後ずさりをして引き下がらなければならないなどと、僕をおどかす奴まで出てきた。段を下りて賞をもらい、また段を上ってもとの位置に戻るのだから、僕は『ようし、あつと言わせてやるから見ていろ』とばかり、後ろ向きに階段を飛び上がる練習を始めた。こういったしきたりのばかばかしさを思い知らせたかったのだ。今考えればまったく愚かな話だが、僕はまたとんでもないムードにあったものだ。ところがこの作法はとっくに廃止されており、王の前に出た者は誰でもくるりと回れ右をして、あたりまえの人間らしく鼻の向いた方に歩いて引き下がることになったことがわかった」(R. P. ファインマン(大貫昌子訳)『ご冗談でしょう、ファインマンさん(下)』(岩波書店、2000年)228-229頁)

本の読み方など読者が好きに決めるものであり、貴様の**小賢しい講釈**などお呼びでないなどと言われてしまうと、こちらも立つ瀬がございませんが、それでも既存の常識や権威に**囚**われない自由な精神がユーモラスに語られていることはお分かりいただけたのではないかと存じます。書籍は、日々の生活の中では直接体験することの困難な世界を経験し、世の中ひいては人生をこれまでとは異なる視点から捉え、思考することを可能にする有用なツールです。

近年の日本社会は至る所で余裕を失ってきております。遠い将来のことなど誰も見通せるものではありませんが、あるいは今後あなたの親世代と同じ生活水準を維持することも難しくなってくるかもしれません。芥川龍之介が描くところの河童の国ならいざ知らず、私達には自らが生れ落ちる世界を**予め選ぶ**ことなどできません。したがって、もし忌まわしい将来が現実のものとなったとき、**魍魎魍魎**が**蔓延**る世の中をどう生き抜いていくのか、あなた自身の頭で考えなければならないのです。

無論、言うは易し、行は難し。何をどう読むべきかを見定めるのは容易な**業**ではございません。本学図書館が誇る蔵書の押すに押されぬ充実っぷりを以てしてもなお、古今東西・**森羅万象**あらゆる文献が根こそぎ取り揃えられることなど望むべくもなく、それでいて「よくもまあ、我々人類はこれだけの暇を潰してきたものだ」と呆れ、感嘆しうだけの目方は十二分にございましょう。加えて、今この文章をご覧になっている方を前にして天に**唾**する言い草になることは重々承知しておりますが、世に**遍**く出回る文章も大半は、その退屈さたるや我々の関心を他のより生産的ないし**蠱惑**的な営みへと向かわしめるに申し分のない出来栄であり、またその価値も紙上に散らばるインクの染みを超えるものではありません。しかし、これら**玉石混淆**の書物の中から「知性」を見出し、自らの糧としていくことができたならば、それが今後あなたの人生のどこかで役に立つ日が来るかもしれません。私があなたに読書をお勧めするのはこのような理由からです。



## 図書館利用案内



### 利用者カード

- ◆ 学生証と併用です。在学中有効です。
- ◆ 図書の新し出しのとき必要です。
- ◆ 教職員のカードは、図書館で保管しています。

### 開館時間

- ◆ 平日 8:45 ~ 18:00 (休業中は 17 時)
- ◆ 土曜日 8:45 ~ 12:00 (隔週)
- ※ 臨時に開館時間を変更する場合は、図書館内の掲示によりお知らせします。

### 利用資格

- ◆ 本学教職員
- ◆ 本学学生
- ◆ 聴講生・研究生・科目等履修生
- ◆ 一般市民 (ただし貸出不可)

### 学外貸出

- ◆ 借りる本と学生証をカウンターに提示して貸出手続きをして下さい。
- ◆ 貸出手続きは、閉館 10 分前までに済ませて下さい。
- ◆ 手続きしないで本を持ち出すと、ゲートでブザーが鳴り、持ち物を調べることになります。

### ◆ 貸出冊数及び期間

区分	貸出冊数	貸出期間
学部生他	5 冊以内	1 週間以内
大学院生	10 冊以内	2 週間以内
職員	20 冊以内	2 ヶ月以内

- ◆ 予約がなければ、1 回のみ貸出の更新ができます。
- ◆ 夏季・冬季・春季休業期間は、長期貸出になり、貸出冊数も倍になります。
- ◆ 卒論・実習等で必要と認められた場合には、特別貸出として期間を延長できます。
- ◆ 辞書・事典等の参考図書は貸出できません。館内閲覧か、必要部分をコピーして利用して下さい。

### 休館日

- ◆ 隔週の土曜日
- ◆ 日曜・祝祭日
- ◆ 学院創立記念日 (5 月 1 日)
- ◆ 年末年始 (掲示にてお知らせします。)
- ◆ 学院追悼式の日 (3 月 3 日)
- ◆ その他館長が必要と認めた日 (掲示にてお知らせします。)



## 国立情報学研究所のサービスが利用できます



国立情報学研究所 (Nii) は、研究に必要な情報を総合的に検索できるサービスを提供しています。探している本が大学の図書館にない時、ほしい論文がどの雑誌に掲載しているのかわからない時など、Nii の学術情報サービス (<http://www.nii.ac.jp/service/general/>) から調べることができます。

大学のホームページ (<http://www.koshien.ac.jp/>) → 大学案内  
→ 図書館 → 情報検索

### 【Nii の学術情報を総合的に提供するサービス】

- 日本の論文を探す・・・CiNii Articles
- 日本の大学図書館の本を探す・・・CiNii Books
- 色々な手がかりから本・雑誌を探す・・・WebcatPlus
- 研究課題・成果を探す・・・KAKEN (科学研究費補助金データベース)
- 学術研究データベースを探す・・・NII-DBR (学術研究データベース・リポジトリ)
- 教育・研究成果を探す・・・JAIR (学術機関リポジトリポータル)

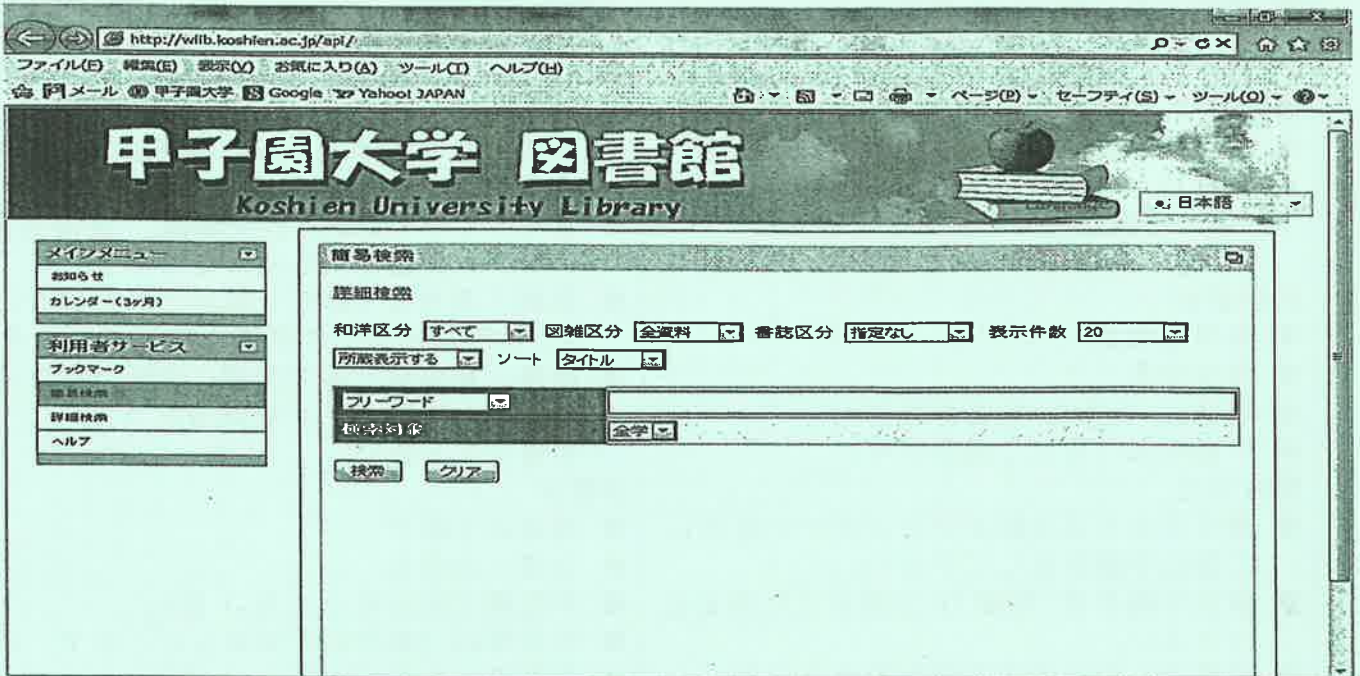
### 【その他】

- 現行法規や法律判例の検索・・・法情報総合データベース【D-1Law.com】
- 電子ジャーナルの論文検索・・・NII-REO (NII 電子ジャーナルリポジトリ)
- 研究機関・研究者等の検索・・・Read & Researchmap
- 日本の学協会のリンク集・・・学協会情報発信サービス

大学の図書館にない本や雑誌論文は、他大学の図書館から取寄せることができます (実費必要)。カウンターでお申込みください。

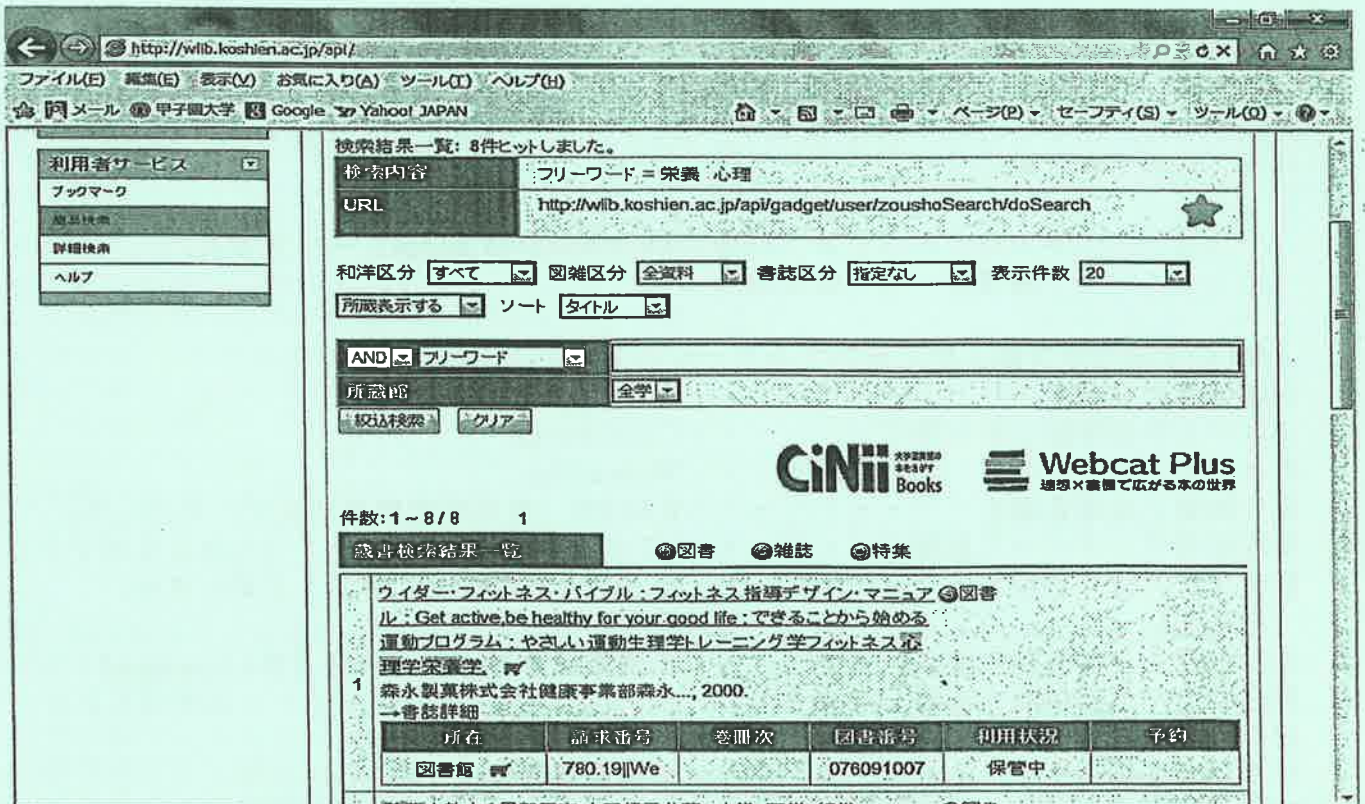
❀ インターネットを使い、家のパソコンからでも図書館の本を調べることができます ❀

大学のホームページ (http://www.koshien.ac.jp/) → 大学案内 → 図書館  
 → 蔵書検索システム (OPAC) → 簡易検索



[フリーワード]の欄に検索語(書名の一部、著者名、出版社、キーワードなど)を入力して[検索]をクリックする。

(例) 検索欄に「栄養 心理」と入力して[検索]をクリックする。



「栄養 心理」に関する図書が表示されるので、該当する図書の「請求記号」(請求番号)の欄で図書を見つけることができます。「利用状況」が「貸出中」の場合、予約ができます。